

仙台市立仙台工業高等学校 (定時制課程)

校訓 友愛 協調 勤勉



1 基本データ

創立：明治29年
 課程・学科：定時制課程・建築土木科、機械科
 生徒数：82名
 所在地：〒983-8543
 仙台市宮城野区東宮城野3番1号
 電話番号：022-237-5341
 F A X：022-283-6478

ホームページアドレス：
<http://www.sendai-c.ed.jp/~sen2kou/>
 電子メールアドレス：
 sen2kou@sendai-c.ed.jp
 主な交通機関：
 ①JR仙石線利用の場合 「陸前原ノ町駅」下車、徒歩15分
 ②地下鉄東西線利用の場合 「卸町駅」下車 徒歩15分
 ③仙台市営バス利用の場合 「宮城野小学校・仙台工業高校前」下車、徒歩1分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

技術・ものづくりへの道～学びへの約束

*** 資格取得への挑戦 ***

技術・技能・ものづくり

そして資格取得へとステップアップ

○働きながら学ぶことができます。

○生徒一人ひとりを大切に、きめ細かに授業を行っています。

(3) 教育方針

本校の教育方針は、「働きながら学ぶ」ことの意義を自覚し、一般教養を高めるとともに、工業技術の基礎的知識、専門技術を習得し、社会の有為な形成者としての技術者を育成することを掲げています。

その実現のため今年度は「伝統校としての自信と誇りの醸成」を重点目標に、次の5つの項目を掲げ、将来産業界の各分野で活躍できる人材育成を目標に、教職員が一丸となって学校づくりに取り組んでいるところです。

- 1 確かな学力の習得
- 2 専門技術・技能の習得と深化
- 3 専門性を生かした進路実現
- 4 職業人としての資質醸成
- 5 落ち着いた教育環境づくり

また、本校定時制課程では、資格取得を奨励しており生徒は様々な資格に挑戦し合格しています。昨年も国家技能検定3級9名（機械保全2名、建築大工1名、普通旋盤1名、フライス盤1名）、2級施工管理技術検定学科試験6名（土木6名）、危険物取扱者試験乙種4類5名、計算技術検定2級2名、建築CAD検定3級2名の合格者を出しました。

また、工業各種大会に出場し、ものづくりコンテスト木材加工部門1位・東北大会2位、測量部門3位、旋盤作業部門6位と競技会においても全日制の生徒に負けない成績を上げています。このような資格の取得や競技会の成績を点数化したジュニアマイスター顕彰制度においてシルバー2名、ブロンズ2名が表彰されました。

(4) 教育課程の特徴

本校は、工業人を育てるとともに有能な社会人を育成することを目指しています。そのために普通科目が46～48単位、工業科目が28～30単位となっています。普通教科は、国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭の9教科18科目。工業科目は、建築土木・機械の各科とも専門教科の基礎知識・技術の習得後、応用技能を容易に習得できるように工夫しています。

(5) 行事・生徒会活動・部活動

自主自立の精神を大切にし、生徒が進んで活動できるようになっています。中でも最大の行事が体育祭です。実行委員と生徒会執行部が中心となりユニークな競技を考案し、生徒と教員が一緒になって楽しめるものとなっています。

その他の行事としては、クラス毎に企画し

て職場見学や映画鑑賞、バーベキューなどを楽しむ「野外研修」があります。日頃、職場と学校を両立させている生徒たちにとって、クラスメイトとゆっくりと交流を持てる機会となっており、とても良い時間となっています。また、「校内生活体験発表会」では、各クラスの代表が、夜間定時制の生徒ならではの体験や思いを発表しています。発表を通して、改めて自分自身のこれまでの生き方をふりかえり、そして今後の生活の目標や指針を見出すきっかけとなっています。

クラブ活動も盛んです。仕事と学校を両立させる環境の中で、練習時間は限られていますが、軟式野球部、バドミントン部、バレーボール部、バスケットボール部、陸上競技部、柔道部など、各部の部員数は決して多くはありませんが、意欲的に楽しく練習に励んでいます。ここ数年では、バドミントン部、柔道部、陸上競技部、バレーボール部が全国大会出場の実績を残しています。文化部では、自動車部が毎年電気自動車エコラン競技の全国大会に参加しています。支給されたバッテリーをエネルギーとしてモーターを使い、競技時間2時間での走行距離を競う大会です。平成28年度は、約2年間かけて完成した新型車両で大会に出場し、通算6度目の全国優勝を成し遂げました。

(6) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	H29	H28	H27
大学	0	0	4
短期大学	0	0	1
専各学校	3	0	0
就職(県内)	18	11	10
就職(県外)	0	0	0
その他	1	0	0
卒業生計	22	11	15

※主な就職先(平成30年3月卒業生)
 アストモシリテイリング株式会社東北カンパニー、株式会社トーユー、中央鋼建株式会社、小野リース株式会社、日誠工業株式会社、東日本コンクリート株式会社、株式会社松居組、大栄重機工業株式会社、株式会社太陽自動車工業所、株式会社タックス宮城野、株式会社東日本宇佐美、シーレックス株式会社東北工場 他

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

本校定時制課程は、大正4年、市立仙台工業補習学校として発足。昭和19年に仙台工業学校第二部と改称し、昭和39年には二十人町から現在地に移転、翌年に独立校になりました。独立夜間定時制高校である仙台市立仙台第二工業高等学校を前身とし、平成22年4月に仙台市立仙台工業高等学校定時制課程として新たなスタートを切りました。本校生は「不撓不屈」の精神のもと、昼働き夜学ぶ男女共学校として、これまでの伝統を受け継ぎさらに発展させようと意気盛んで、平成28年に定時制課程創立100周年を迎えました。

本校の工業実習設備は県内屈指の環境を整えており、それらを生かし全校をあげて各種資格取得に取り組んでいます。また、完全給食が実施され、始業前に生徒・職員が家庭的な雰囲気の中で共に食事をとることも本校の魅力のひとつです。

(2) 設置学科等

(過去3年間の学科コース別・前後期選抜別の出願者数・合格者数)

<前期選抜>

		H30	H29	H28
建築土木科	出願者数	9	5	3
	合格者数	7	5	3
機械科	出願者数	4	8	3
	合格者数	2	5	3

<後期選抜>

		H30	H29	H28
建築土木科	出願者数	4	6	3
	合格者数	1	4	2
機械科	出願者数	4	6	10
	合格者数	2	4	7

3 入試情報

(1) 募集定員

建築土木科 男女40名
機械科 男女40名

(2) 前期選抜について

イ 学科別の募集割合等

建築土木科 定員の40%以内(16名以内)
(社会人特別選抜も含む)
機械科 定員の40%以内(16名以内)
(社会人特別選抜も含む)

ロ 出願できる条件

<全学科>

次の1~3の条件を全て満たし、かつ、志願学科に興味・関心があり、将来、ものづくりを通して社会に貢献しようと考え、意欲的な高校生活を送る意思を持っていることを自己アピールできる者

- 1 基礎学力が身に付いている
- 2 基本的な生活習慣が身に付いている
- 3 他を思いやり尊重することができる

ハ 学力検査

各学科とも 国語、数学、英語 各50点

ニ 学校独自検査

各学科とも 個人面接 (配点150点) 15分

(3) 後期選抜について

イ 学科別募集人数

建築土木科 男女24名(予定)
機械科 男女24名(予定)

ロ 面接・実技の有無

各学科とも 個人面接

ハ 傾斜配点の有無

各学科とも なし

ニ 調査書点と学力検査点の比重

各学科とも 5:5

ホ 学科の第2志望について

該当あり

建築土木科…機械科を第2志望とすることができる。
機械科…建築土木科を第2志望とすることができる。

(4) 社会人特別選抜について

イ 学科別の募集割合等

各学科とも 若干名(前期選抜に含む)

ロ 出願できる条件

次の①及び②の全ての条件に該当する者とする。

- ① 事業所に継続して3年以上勤務した者、又は、平成31年3月31日現在において3年以上勤務する見込みの者。自営業者・主婦等については、当該業務従事を「勤務」とみなす。
- ② 次の条件を満たし、所属長の推薦を得た者。
(ア) 勤務態度が優秀で、人物が優れていること。
(イ) 定時制課程当該学科を志望する動機や理由が明確で適切であること。
(ウ) 定時制課程当該学科に対する適性及び興味・関心を有すること。

ハ 選考方法

各学科とも 個人面接

(5) 平成30年度転編入学試験について

(7月以降分)

	日程	対象学年	試験科目等
転入試験	12月まで随時	全学年	国語・数学 個人面接
	平成31年3月19日	新2・3・4年	
編入試験	平成31年3月19日	新2・3・4年	

4 写真で見る学校生活



校舎前景



溶接技術競技大会



建築実習(軸組模型)



課題研究発表会

我が校のPRポイント

生徒の皆さんを中心に、教職員、保護者の皆さんそして地域社会の皆さんとの「心のつながり」を大切にしている学校です。生徒の皆さんの多様なニーズ(個)に応じた対応、取組を展開しています。例えば、基礎学力の定着と向上、資格取得そしてものづくりへと工業系専門高校の魅力をも十分に堪能していただける学校です。きめ細かな指導体制は、生徒の皆さんの学習環境を高め、学習活動・課外活動の萌芽により積極的な取り組みへと導き、それが大きな「自信」への階(きざし)づくりをサポートします。